



1980年代、写真の中ではニューウェーブとかメイク・フォトと言われる動きが、ニューヨークを中心に巻き起こる。写真は真実を伝えるものではないと思われはじめたけれども、それでもまだ曲がりなりに目のまえの現実を写したものとされていたものが、この時代、大きく転換することになる。テイク (Take: 撮る) からメイク (Make: 作る) へ。自らの思う現実を作り上げ、撮影する。それらは、人形であったり、自分であったり、愛犬であったり。此処にはない夢の世界を作り上げ、その中で遊ぶ彼等の現実を写し撮る。写真は画面の向こう側へも旅立てるということを、この時、示されたのかもしれない。同時にそれは、創作というアートの世界へ写真が本格的に入っていく入口にもなったのである。

study meeting vol.13

「作られた物語」

期日：2019年8月24日(土)

時間：18:00-20:00

講師：先間康博 (写真家)

参加費：1,500円

定員：10名 (事前申込制)

study meeting vol.14

「タイポロジーと現代写真」

期日：2019年9月14日(土)

時間：18:00-20:00

講師：先間康博 (写真家)

参加費：1,500円

定員：10名 (事前申込制)

「写真とは何か」を、写真家 先間康博氏が独自の視点を織り交ぜながら多角的に考察するレクチャー・シリーズ。各回完結ですので、途中からでもお気軽にご参加ください。

お申込み方法：

お電話、e-mail、facebookより承ります。

tel 058-265-2336 (水～日・12:00-18:30 *臨時休廊あり)

e-mail caption@mbe.nifty.com

会場：GALLERY CAPTION 岐阜市玉姓町 3-12 伊藤倉庫 2F



先間康博 (さきまやすひろ)

1966年福岡市生まれ。1998年名古屋大学理学研究科宇宙物理学専攻博士課程満期退学。主な展覧会に、2006年「先間康博作品展“林檎 ニュートンもセザンヌも僕も”」ツァイト・フォト・サロン/東京。2007年「Japan Caught Camera」上海美術館/中国。2008年「先間康博作品展“夜と林檎”」ギャラリーHAM/名古屋 (以降、'10年'14年'16年'19年) など。

物事を分類する「類型学 (タイポロジー)」の手法を、注目されることのなかった古びた給水塔や溶鉱炉などに応用し、同一の条件で撮影し続け、ミニマルな構成で展示したドイツのベッヒャー夫妻。彼等の作品は、後にヴェネツィア・ビエンナーレで、最高賞である金獅子賞を彫刻で獲得し、自らが対象に関わる事のない、いわゆる純粋な写真を、一躍現代美術の中心に据えることに成功した。彼等以降、写真が美術と同等の扱いをうけるようになったとも言える。そしてまた、彼等はドイツのデュッセルドルフの美術学校で教壇に立ち、多くの写真家を輩出した。アンドレアス・グルスキー、トーマス・ルフなど、ベッヒャーの様式を吸収し、そしてそれを発展させることによって、世界の第一線で活躍している。ある意味、今日の写真の原型は彼等によって作り出されたと言ってもいいのかもしれない。

